

令和6年度 第5回定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

会 議 名	令和6年度 第5回定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和6年12月25日（水）14:00～15:00
開催場所	いなべ市役所シビックコア棟 研修室2, 3, 4
出席者	【委員】10名（欠席4名） 岩崎恭典（座長）、和氣城太郎（副座長）、福本美津子、三宅徹、黒田寿美、ニエタ博和、野田智文、岡正光、小葉松賢治、末吉利教 ※欠席：相田直隆、小林弘樹、西田太郎、中川康司 【行政側】32名（欠席6名） 山下正史（いなべ市副市長）、出口和典、（いなべ市企画部長）、 岩田長司（いなべ市環境部長）、岡真水（いなべ市福祉部長）、 出口美紀（いなべ市健康こども部長）、太田東洋（いなべ市建設部長）、 伊藤功（いなべ市教育部長）、中川賢（東員町総務課長）、 中村徹也（東員町みらい環境課長）、太田憲明（東員町子ども家庭課長）、 児玉豊和（東員町健康長寿課長）、丸山太（東員町社会教育課長）、 片岡芳輝（菰野町参事兼総務課長）、芝田正博（菰野町安全安心対策室長）、 内田徹（菰野町参事兼コミュニティ振興課長）、秦崇（菰野町観光産業課長）、 東村宗尚（菰野町観光商工推進室長）、毛利広行（菰野町環境課企画監）、 伊藤正人（菰野町都市整備課長）、坂井貴行（菰野町子ども家庭課長）、 樋江井晴子（菰野町健康福祉課長）、加藤正治（菰野町参事兼企画情報課長）、 松岡武臣（菰野町企画情報課情報システム推進室長）、 小谷直仁（いなべ市政策課長）、小河信彦（東員町政策課長）、 諸岡伸也（菰野町企画情報課政策推進室長）、児玉吏（いなべ市政策課）、 堀田彰宏（いなべ市政策課）、西尾みずき（いなべ市政策課）、 秦由奈（東員町政策課）、藤井隆道（菰野町企画情報課政策推進室） ※欠席：大川洋海（いなべ市都市整備部長）、若松辰彦（いなべ市農林商工部長）、南部博輝（東員町地域福祉課長）、末永泰介（東員町建設課長）、三林大高（東員町学校教育課長）、栗原一生（東員町政策課）
会議次第	1 開会 2 座長あいさつ 3 パブリックコメントの意見及び回答について 4 第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョンと今後の進め方について 5 第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョンに対する答申案について 6 次回の開催について 7 閉会
配布資料	資料1…第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョン（原案）に対する意見 資料2…第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョン 資料3…進捗管理（様式） 資料4…第4次定住自立圏共生ビジョンの策定について（答申案）
公開、非公開	公開

議 事 概 要

1 開会

2 座長あいさつ

3 パブリックコメントの意見及び回答について いなべ市政策課長から説明。

【資料1】…第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョン（原案）に対する意見

【座長】

- ・ありがとうございます。パブリックコメントの意見、回答につきまして説明がありました。本来であれば、この懇談会で計画策定してるので、ここで回答案をまず議論をし、文案を修正するという手順を踏むということになりますが、1市2町でまとまって策定していることもありますし、パブリックコメントの回答というのは、それぞれの市町の責任でやらしてもらわないといけない。懇談会にあげてそしてまたもう一度、住民の皆さんに返すというのも、若干日数が取られるということもありますので、いなべ市と両町の責任でこのような形の回答案を策定させていただきます。何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

⇒よろしければ、こういう形で原案に対する意見についての回答とさせていただくということにしたいと思います。

- ・つい数日前に松阪市長の談話がありました。救急の選定医療費を設け、救急車の出動が劇的に減ったと書いてありました。必要なときに必要な救急車が出てこられるようにはなったと仰っていました。ただ、アンケートの結果が出るまでは市長もドキドキだったということです。救急を放棄して高い金を取るのかということが、住民の方の議論になってしまうのではないかとすごく心配したということでもあります。そういうこともないまま市民には受け入れられてはいるようでありますね。これは参考にする必要があるかもしれません。

4 第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョンと今後の進め方について

パブリックコメントを受けて共生ビジョンの修正点と今後の進捗管理の進め方をいなべ市政策課長から説明。

【資料2】…第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョン 【資料3】…進捗管理（様式）

【座長】

- ・定住自立圏共生ビジョンの主な修正の部分と、それから生活機能の強化という部分を例にとって、今後こういう形でPDCAサイクルをまわしていきたいというご説明でありましたが、この2点につきまして何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

⇒意見なし

5 第4次いーとこ定住自立圏共生ビジョンに対する答申案について

答申案をいなべ市政策課長が読み上げ。

【資料4】…第4次定住自立圏共生ビジョンの策定について（答申案）

【座長】

- ・この答申案と共生ビジョンをあわせて、市長に答申をしようと思っています。答申内容を読み上げていただきました。（1）の部分というのは、国からも言われていますが、人口が日本全体で減っていくが、その減り方を緩やかにしてできるだけ維持するというのが、定住自立圏の目

標でもあります。まずは、令和11年の圏域人口109,000人を達成することをきちんこの施策を通じてやらないといけないということは念押しをしています。それから、(2)の方については、3つの政策分野で皆さんからいただいたご発言の内容を、簡単であります項目でまとめて書かせていただいた。そういう形の答申案でございます。いかがでしょうか。

【副座長】

- ・内容につきましてはこれで結構かと思っております。答申日はどのようなシチュエーションでお渡しすると想定されてるのか、ご説明お願いいたします。

【事務局】

- ・いなべ市長をはじめ、東員町長様、菰野町長様、委員の皆様にもご参加いただけたらと思っております。短時間のためにご足労をおかけしますが、お願いできればと思っております。あとは、報道関係者にプレスリリースをかけて取材をしていただく予定です。

【座長】

- ・もしかすると30分かからないかもしれませんが、こういう機会はあまりないと思いますし、ぜひ皆さんでお渡ししたいと思っていますので、ご都合のつく方はぜひ1月24日14時からを予定しておりますので、ご足労をいただける方はぜひお願いしたいと思っています。
- ・これまで委員の皆様には、分科会等でかなりの回数それぞれの立場から定住自立圏共生ビジョンの策定に関わっていただきました。ぜひ感想でも結構でありますし、これからの圏域としては、この部分を重点的にしていく必要があるよねということで念押しでも結構です。それぞれの立場でご意見をお願いできればと思います。

【委員】

- ・医療福祉に関係するところで、この資料を見させていただきました。病院の数が非常に少ないと感じます。やはり圏域で連携をしながら、医療分野の管理ができていくと良いなということと、福祉分野に関しては、やはりいなべ市、東員町、菰野町それぞれ持っているサービスが若干違っておりますので、みんなが連携しながら上手に使って行って、住民の方たちがより良い福祉サービスを受けられるようになればいいなと思っております。住んでる方たちにとっては、交通の部分が非常に不便だということで、これは全国的にも、充実したところに人が移住してくるだろうと私は考えております。

【委員】

- ・初めてこのような会議に出席させていただいて、皆さんの意見を聞かせていただいて、私自身もすごく頑張っていけないといけないなと思いました。子育ての部分ですが、子育て中の家庭が子どもたちと安心して住みやすい圏域にしていいただければと思います。

【委員】

- ・この度はこういった機会に参加させていただきましてありがとうございます。個別の施策の話というよりも、参加させていただいた感想です。1つはこれは同じ分科会の方には申し上げたんですが、進め方の話です。そうなんだと思ったのが、人が住んでいくということについては、行政サービスの何か1つではなくて、個々の向上とか今よりも充実させるということが結果的に住民の方々の安心な生活に繋がってくだということ。だから、それぞれの全般的な施策の

話を次のステージでどうしていくかという話をしてるんだなと理解した次第です。もう一つは、個人的に感じたことなんですが、私たち住民が安心して生活できるのは、行政の方々のいろんな努力があるからなんだなというのを実感しました。正直、テレビとかの報道では、例えば手続きがお役所仕事とかそういったネガティブな面ばかり放送されて、役所というのはそういう団体だというイメージが何となくあったのですが、実際にはそれは結局一部の話で、どうやって今の施策をうまくやっていくのか、住民の方を呼び込んでいくのかという努力の結果、私たちがちゃんと生活をしていけるんだなと気づき、市の皆さんに感謝しなきゃならないと思いました。良い機会をいただいたと思います。ありがとうございます。

【委員】

- ・10月に団体が立ち上がりまして、私は観光と健康の部分で東員町に関わらせてもらっているのですが、東員町は非常に健康寿命も平均寿命も非常に長い町でして、定住自立圏で住み続けてもらうのも大事ですけど、やはり健康寿命を延ばしていただいた上で住み続けてもらうのが大事だなと感じます。あと観光の部分で、いなべ市、菰野町、東員町というこの3つが集まる機会がありますので、ぜひとも住民の皆さんにこの3つのまちが連携して、いろんなイベントを「やっている」のではなくて、目に見える形で今後進めていったら、本当にいいところっていう名前が活きてくるのかなと思いますので、皆さんで頑張っていきましょう。ありがとうございます。

【委員】

- ・今回の委員ですけれども、2回ほど出席できていないときがありましたので、お詫び申し上げます。交通のことですが、92ページ。委員の方や住民の方の声が多いということでデマンド交通。これまでのインフラというものに対して、水や電気などに加えてやはり移動というものが、ご意見があって加えられたということにつきまして、我々も真摯に受けとめなければならないと感じています。少しご紹介いたしますと、この頃新聞でも騒がれていますように移動手段を確保することに関して、国土交通省様が国交大臣、本省におられる局長、それから地方におられる局長全部集められて、交通空白解消本部という名前のものを、立ち上げて相当な取り組みをされています。何とかそれに協力したいなということで、一緒になって頑張っているところです。その中で言われているのが、官民が連携して、いわゆる民だけでも駄目で、公の方たちにも一緒になって考えるということですので、今回この取りまとめの中で入ったことというのは1つ意義のあることかなと思います。また、デマンド交通というのもう1つキーワードになってまして、お客様の必要なときにそこに提供できるということ。遅滞が少しあるかもしれないけども、最低限のものは何とかできるということから始めなければならないと思ってる次第ですので、このような場を通じてまた意見の交換ができたらと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【委員】

- ・担当分野は産業振興と観光です。今回、菰野町が入られて、一步踏み込んだKPI、成果指標等の設定ということで、7年度の懇談会までに決定するということですので、これから3市町のそれぞれのポテンシャルといいますか、強みを相互に補完しながら、ただビジョンにも書かれています現状と課題にもありますように、地域の自然、歴史、文化、農作物や施設など、いろんな支援を活用しながら、行政や民間、またやはり住民と一体となって、観光振興、活性化をするという方向性も含めて、これからより有効的で積極的な事業を進めていただきたいと思います。そして、地域の活性化につなげていただければと思っております。どうもありがとうございます。

います。

【委員】

- ・平成21年にいなべ市が中心市宣言をされて、初めて共生ビジョンを策定したときには、私は東員町の教育委員会にいました。今回15年という年月を経て、菰野町が加わった新しい形の共生ビジョンができ、また新しいスタートが切れたというのがすごく良いことだなと思っています。詳しくはわかりませんが、2005年でしたか。日本の人口がピークになって、それまでの100年で増えてきた人口が同じように100年と同じぐらい減っていくという予想がある。減るのが分かりきっていて、人口減少社会の中でどうしていくかというところは、誰もが初めて経験することだと言われています。ただ、短い期間の中では、さほど大きくは変わらないんだろうと思うんですけども、いずれにしても自然減社会減になっていくんだろうなと思いました。それを何とか食い止めなければ、流出を防ぐしかないのかな。他から入ってきていただくということもある程度限られていることでありますから、この3市町が、より魅力的な市町になっていくことが、一番大きいかなというふうに思っています。私は教育分野に携わっていましたが、医療とか環境とか他の分野についても、今回勉強することができたなと思っておりまして、良い機会をいただきました。ありがとうございました。

【委員】

- ・この度はいろいろ横の繋がりを知り、うちの業界のことだけではなくて、担い手不足は共通だなと感じました。障がいのある方のことを知って欲しいという思いだけではなくて、僕たち側から発信していく大切さであったりとか、また逆に知ろうという他のところで横の繋がりを知っていくということは積極的にこちらから知る大切さを学ぶとてもいい機会になりました。そこから副産物で、横の繋がりを知ることによって、狭い世界の中だけじゃなくて、他のところから共同しながら、何かできることってもう少しないのかなと感じました。どうしても障がいのあるところってマイノリティな分野で、先日クリスマス会を開いたんですけど、一人暮らしをしてる重度の障がいのある方がすごくいい笑顔で言葉は何もないんです。ものすごい表情があるんで、そういう1つ1つの価値っていうのは、小さいものでもあるんですけど、皆さんも知っていただいたらいいと思います。たぶん障がいというのは別に縁遠いところにあるものではなくて、明日どうなるかわからない身近な部分でもあるので、その点では僕らからもそういう1つ1つが街中にあるんだということをもっとつなげて整理できるような働きかけが必要で、ひとりよがりじゃない形で、いろんなところでいろいろ発信していくことが必要だと感じました。今回これも本当に皆さんとお会いできて、横で繋がらせてもらったことはものすごくいい機会で、勉強にもなりました。本当にありがとうございます。

【副座長】

- ・いなべ市、東員町、それから菰野町の皆様、行政の皆様本当にここまでの計画を作り上げてこられたことに、心から敬意を表したいと思います。また、とりわけ中心市のいなべ様、取りまとめが大変だったろうと、そのご苦勞に感謝を申し上げたいと思います。私はこれで定住自立圏は松阪市に続いて2回目の参画になるんですけども、やはり行政っていうのは大変幅広い分野に分かれてまして、とにかく言われるように縦割りというところもあります。ただ、これだけの行政の職員が、本当に様々な分野を一堂に会して話をするというのは、大変意義深いなというふうに思って、私も参加をさせていただきました。県も微力ですが、この定住自立圏の実現に向けて、尽力して参りますので、今後ともよろしくお願いします。

【座長】

- ・コロナを契機にして Zoom でいろいろと会議をやるようになりましてね。それで、来年の2月に鹿児島県のいちき串木野市とオンラインで話をするんです。その事前打ち合わせをしていて資料を見ると、いちき串木野市って鹿児島県内のある意味とんでもないところにあるので、てっきりいわゆる消滅可能性都市かと思ったら、実はそれから外れてるんですよ。理由を聞いたら、これはからくりがありまして、市の中に、留学生の語学学校と、それから農業と漁業の研修生、要するに若い人がいる。特にそれが紡績工場なのかな。だから、若い女性がその地域に行っているの、鹿児島県内でほとんど唯一消滅可能性都市から外れてるんだよね。要するに、東京で見ている消滅可能ってそういうもんなんですよね。結局、それによってかなり地域はしんどい思いはいろいろしてるんだけれども、要するに若い女性がどれだけいるかというだけで、消滅可能性都市として外れるはずがないということをやっている。言ってみれば、地域というものをどういうふうにもんなでもう一度再構築していくか、そのためにはデータも必要なのにそのデータが表しているものが、本当にそうなのかっていうのも一遍見ないといけないなというのは、いちき串木野市さんと話していてつくづく思いました。
- ・それから実は昨日、明和町で公共交通会議やってきたんですよ。そこで、大議論をしました。明和町は「チョイソコめいひめ」というデマンド交通を導入しているわけですが、今、車が2台あるのかな。2台では予約がやはりオーバーしてしまって、不成立の場合が結構出てきた。そこを何とかカバーしたいということで、DMOで明和観光商社がありますが、車を出して参入する形で実証実験をやりたいという議論になりました。そうすると、明和町はその意味でいうと、交通空白地域なのかどうか。当然タクシー業者さんもありデマンド交通もやっているということで、時間的な交通空白地域なんですね。特に平日午前中の病院に行くときのニーズに対応できてないっていうわけですね。ただ、そこをライドシェアでカバーしていくとなったら、どんどん進展していくと、当然タクシー業界さんは致命傷を負うわけですし、全部ライドシェアにしたら、朝の9時から夜の7時までにはそれが対応できるとしても、夜中はどうするんだ。全部救急車になるんですかというそういう話ですよ。そのようなまさに制度の狭間、人口がぐっと減っていく中で、様々な問題が地域で噴出している。そういう中で身近な地域で解決しなければいけないことと同時に、もっと広い地域でのセーフティーネットもずっと維持していかないといけない部分があって、その広い部分のセーフティーネットを維持していくのが、多分この定住自立圏という構想だろうと思います。ですから、障がいを持ってらっしゃる方、或いは単独の市町ではなかなか量として把握できない。そういった方々の様々な課題というのを解決するために、集まるってのはすごく意味のあることであります。その一方で、ひとり暮らしのお年寄りがたくさん増えるわけですから、一人暮らしのお年寄りの共通のサービスをそれぞれの自治体が担うと同時に、もっと狭い小学校区ぐらいで、まさに昔やっていた自助・共助、特に共助の部分で出来ないだろうか。そういったことをしていくのが、多分基礎自治体の務めで、それをしてもらうために広域行政は、きっちりとセーフティーネットを維持していかなくてはならない、その観点でこれからも定住自立圏というのはやっていかなければいけないと思っています。幸いにして国は、来年の6月か7月あたりまでに新たな地方創生の総合戦略を作ると言ってます。石破さんはご存じの通り地方創生にかなり理解のある方ですよ。なおかつ、交通問題に対してすごく見識のある方ですので、移動の問題というのはかなり大胆なものが多分出てくるだろうと思います。ただ、いなべ市の福祉バスもそうですが、みんな欲しい、いずれ必要になるだろうと思って言うんだけれども、実際はなかなか乗らない。車に乗れない人たちがこれからどんどん地域が増えてくるときにどうするのかは、それぞれの地域、行政そして圏域全体で考えていかなければいけない。特に菰野町が入られたことによって、やっぱり市と町の境の部分でどちらも手が出せないような部分があるので、それを公共交通、

タクシーにするのか、デマンドにするのか、その辺はまたこれから検討していかなければいけないけれども、やはり住む人の移動の自由というものは、これからも確保していかなければいけないものの1つだろうと思っています。そういう意味で、この1市2町の職員の皆さん、それから関係の皆さんが横に繋がったのはすごく大きいことだと思っています。ですから、これを機会に今後もこの計画の進捗の際には、またこれ各市町から依頼があると思いますけれども、ぜひこの策定に関わられたという経緯もありますので、ぜひこれからも計画をそれぞれの立場で見守っていただきたいなということをお願いしておきたいと、いうふうに思います。長くなりましたが、私からの感想は以上です。

- ・それぞれ皆さんにご意見、或いは感想を言っていただきました。共生ビジョンの答申については、別紙の通り決定をさせていただいて、いただいた意見は会議録に記載をし、2つの町の町長さんにも届けるような形にしていきたいと考えます。
- ・それでは、副市長の方から一言お願いします。

【副市長】

- ・本懇談会につきましては今日で5回ということで、各会の委員さんのご検討であるとか、ご議論を聞かせていただいて、この答申案ができました。これをもって各首長に報告をいたします。先ほど皆様からご感想いただいた中で、それぞれキーワードとして連携であるとか、住みやすい圏域、魅力的な圏域、住み続けてもらう、官民連携、情報発信 等々、来年度以降、課題解決等々を含めて、また皆さんのお力をお借りしたいと思いますので、忌憚のないご意見を聞かせていただけたらと思います。本日は本当にありがとうございました。

6 次回の開催について

【事務局】

- ・次回は令和7年1月24日金曜日の午後2時から、こちらの会場で答申します。また、共生ビジョンについて進捗管理を毎年行っております。来年度については、8月から10月までのどこかでお世話になりたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

7 閉会

【事務局】

- ・以上をもちまして、令和6年度第5回定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会します。ありがとうございました。